

〔Ⅱ〕 次の鎌倉時代から室町時代までの文化に関する（１）～（４）の文章を読んで、【設問A】【設問B】に答えよ。（45点）

（１） 鎌倉時代、鴨長明は『方丈記』を、兼好法師は『徒然草』を著し、共に無常観を元に変転する社会や人間を観察し批評した。慈円（慈鎮）は『愚管抄』の中で、武家政権の出現に至るダイナミックな歴史を「道理」で解釈して、承久の乱を前に幕府との協調を訴えた。虎関師錬は日本の仏教の歴史を書物にまとめた。新興武士の躍動する様は、『保元物語』『平治物語』などに著された。また、橘成季の『（ア）』や無住の『沙石集』などの貴族から平民に至る様々な人々の生き方を教訓的に描いた説話集がつくられた。紀行文では、訴訟のため京都から鎌倉におもむいた阿仏尼の『（イ）』などの作品が生まれた。

日本の古典に対する関心も深まり、僧仙覚が『万葉集註釈』を著し、（ウ）は『釈日本紀』を集成・編纂した。朝廷の儀式作法や先例を研究する学問では順徳天皇が『禁秘抄』を著した。一方、武家社会でも、政治の必要性から、北条時頼は政治の倫理を説いた中国の『貞観政要』を書写させた。幕府の歴史を編年体で記した『吾妻鏡』も編まれた。この時代の終わりには、朱熹が打ち立てた儒学の一つである宋学（朱子学）が伝えられ、その大義名分論は、後醍醐天皇を中心とする討幕運動の理論的なよりどころともなった。

（２） 南北朝の動乱によって既成の秩序が崩壊すると、新興武士たちは華美な風俗で伝統的権威を嘲笑する風潮をうみ、佐々木導誉などが登場した。

世の移り変わりのはげしさは、歴史に対する関心呼び起こして歴史書や軍記物がつくられた。歴史書では『（エ）』が源平の争乱から後醍醐天皇までの貴族社会の歴史を公家の立場で捉え、『梅松論』は武家の側に立って承久の乱以降から足利尊氏の政権獲得までの活躍を描いた。また北畠親房は『（オ）』をあらわし、伊勢神道の理論を背景に、天皇の歴史をたどりながら南朝の皇位継承の正当性を訴えた。軍記物では『太平記』がつくられ、南北朝の動乱に生きた人々を生き生きと描いて、ひろく親しまれた。これはのちに「太平記読み」と呼ばれる講釈師によって広く流布した。

- (3) 室町時代には臨済宗を中心とする禅宗が、政治・文化の両面に大きく進出した。足利尊氏の帰依を受けて夢窓疎石は天龍寺を開いた。また義満は南宋の官寺の制にならった京都・鎌倉の五山の制をととのえ、僧録を置いて禅寺を統制させ、住職の任免、寺領の管理に当たらせた。京都五山は（カ）を五山の上とし、天龍寺などの五寺を指し、鎌倉五山は建長寺などの五寺を指す。この時期の禅宗は、室町幕府の保護・統制を受けた五山派（叢林）と、それに属さず地方で発展した寺院に区分される。

<sup>h</sup> 五山の禅寺では、大陸文化の影響を強く受けた文化が生まれた。禅僧は漢詩文にもすぐれ、疎石の弟子の（キ）らが五山文学を発展させた。大陸でさかんとなった朱子学も学ばれ、禅の経典や詩文などの出版も行い五山版と称された。他方、自由に生きた大徳寺の一休宗純のような異色の禅僧もいた。

- (4) 応仁の乱で京都が焼失すると、地方の大名を頼って京都を離れる公家も多く、各地にあたらしい文化の拠点が作られた。大内氏の城下町山口には、五山の禅僧や公家が多く集まり、儒学・五山文学などが栄えた。出版事業も盛んで、その書籍は大内版といわれた。なお、堺ではすでに14世紀に正平版『論語』が出版されている。

さらに肥後の菊池氏や薩摩の島津氏は、桂庵玄樹をまねいて朱子学の講義をきいた。玄樹は薩摩で『大学』の注釈書である朱熹の『大学章句』を刊行するなど活躍し、この地方に薩南学派が興隆するもとになった。少しおくれで土佐では南村梅軒が朱子学を講じ、海南学派（南学）を形成したという。また、禅僧の万里集九は中部・関東など各地を巡り、地方の人々と交流した。関東では15世紀の前半に上杉憲実によって足利学校が再興され、高度な儒学教育が施された。足利学校には多くの漢籍が蔵され、全国から僧侶・武士が集まり、のちには宣教師を通じて（ク）としてヨーロッパにも知られることになる。

武士の子弟を地域寺院に預けて教育を受けさせる風潮も確立し、書状の文例を集めた書物が実用教科書として広く用いられた。また、簡便な辞書も刊行され、読み書きの能力は町衆や村の指導者層にも広まった。<sup>i</sup>

このようななかで、宮司に仕える男が製塩業で富み、自身は大納言、娘は女御になるという『(ケ)』など、御伽草子と呼ばれる絵入りの短編読み物が武士や庶民の間で喜ばれた。

【設問A】文中の下線部 a～i について答えよ。

- a. 関白九条兼実の弟であった慈円がついた、その宗派での最高の地位を何と  
言うか、解答欄Ⅱ-Aに漢字4字で記せ。
- b. この漢文体で書かれた日本最初の仏教通史は、仏教伝来以来の高僧の伝記、  
編年体仏教史などを中心に編集されている。この書物の名を解答欄Ⅱ-Aに  
漢字で記せ。
- c. 公家社会の儀式典礼について研究することを目的とし、鎌倉時代に盛んにな  
った学問のことを何と  
言うか。解答欄Ⅱ-Aに漢字4字で記せ。
- d. 佐々木導誉など既存の権威に挑戦し、傍若無人な振る舞いをする大名が現  
れた。このような大名を当時の人々は「(d)」と呼んだ。この  
(d)に当てはまる語句を、解答欄Ⅱ-Aに記せ。
- e. 足利一門の今川貞世は、今川氏の正当性を主張する書物の中で『太平記』  
を批判した。この書物の名を解答欄Ⅱ-Aに漢字で記せ。
- f. これら五山の下の格式とされ、諸山よりは上の格式とされた寺院を総称し  
て何と  
言うか。解答欄Ⅱ-Aに漢字で記せ。
- g. 1379年に相国寺におかれた僧録という役職に足利義満が任じた人物は誰か。  
解答欄Ⅱ-Aに漢字で記せ。
- h. このように地方的な民間布教に努めた禅宗諸派には、永平寺や妙心寺など  
があった。それらの総称を、解答欄Ⅱ-Aに漢字で記せ。
- i. 「いろは」順に言葉を配列したこの辞書を何と  
言うか。解答欄Ⅱ-Aに漢  
字で記せ。

【設問B】文中の空欄ア～ケについて、それぞれの語群から該当する語句を選択し、その番号を解答欄Ⅱ-Bに記入せよ。

- |     |          |           |        |          |
|-----|----------|-----------|--------|----------|
| 空欄ア | 1. 古今著聞集 | 2. 十訓抄    |        |          |
|     | 3. 義経記   | 4. 宇治拾遺物語 |        |          |
| 空欄イ | 1. 海道記   | 2. 東関紀行   | 3. 山家集 | 4. 十六夜日記 |